

# がたがた通信

MIZUBE NI ASOBU KAI

No. 15

2003・夏の号

発行  
水辺に遊ぶ会

大分県中津市中央町2-8-35  
TEL&FAX. 0979-23-5320

## アヤシイ干潟調査隊2003 Summer

### またまた「生きた化石」を発見!!

その名は **ミドリシャミセンガイ**

【触手動物門：腕足綱：舌殻目】

ミドリシャミセンガイ科 *Lingula unguis*

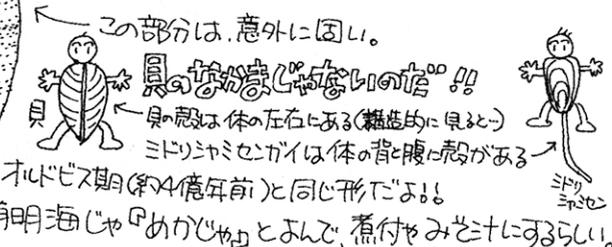
▼つてな具合で始まった中津干潟調査だが、いきなりビッグな発見があった。発見者は古株隊員のAさん。「五月の終わりの暑い日。現場は大新田。その日はハマグリが食べたーい」といってお客様のリクエストに応えるべくワタクシは一心不乱に干潟の泥を掘り返してしました。すると、『ボキッ』と何か折れる感触がしたのであります。スコップの泥をかき分けると、今まで見たことのない緑色の物体が……。おおっ、これはワタクシが夢にまで見たお方ではないですかあ。あわててまわりの泥を掘って、折れた先っちょも回収いたしました。エッペン」と言うわけで、横のイラストが、またもや見つかった「生きた化石」なのである。



▼お日様がキラキラ輝きだしたら、干潟の季節！今年も水辺に遊ぶ会名物「アヤシイ干潟調査隊」が結成された。

▼さて、去年までは「あんたたち何してんの？」と不振な目で見られてきた我々だが、今年は違うぞ！「今日は何の調査かい？昨日はカブトガニがいたのになあ。おしかつたなあ」とか「あんたたち水辺に何とかなのりじゃあ。これ持ってくるかい？（と魚をくれた）」とか海で声をかけられる。おやおおっ、何故だか有名人な感じ！テレビにでたからかな？ちよっとウレシイぞ！

### アヤシイ干潟調査隊2003隊員募集中



▼この大発見の数分後、一のお宝が入ったバケツが風であつたという間に数十メートル飛ばされた。その場にいた人々が全員が青くなつたのはいうまでもない。どこかに振り落とされた数センチのお宝を回収する作業は、干潟調査よりも過酷だったとか……。ビッグな発見には苦労と背中合わせだということを感じた隊員であつた。



ひるひるもん 三百間浜でひるった鳥の骨

春の中津干潟に、チュウシャクミギたち。たーんやんやんできた。長く曲がったくらはしで、かこつかまえて食べます。

- #### ■水辺に遊ぶ会の活動報告 (2003.4.1~2003.6.30)
- 2003.4.13 大新田ビーチクリーン 干潟調査
  - 2003.4.29 干潟観察会
  - 2003.5.3~4 シギドリ調査
  - 2003.5.18 海浜植物調査
  - 2003.5.21 北部小学校4年生総合的学習 ゲストティーチャー
  - 2003.5.28 私立保育園連盟主任者研修 干潟観察会
  - 2003.6.2 映画「森の学校」打ち合わせ 三百間調査
  - 2003.6.7 化石観察会(有志)
  - 2003.6.8 クリーンアップ三百間の浜 参加(北部小学校子供会主催)
  - 2003.6.9 小楠小学校4年生総合的学習 干潟観察会
  - 2003.6.12 北部小学校4年生総合的学習 干潟観察会
  - 2003.6.13 子どもの水辺九州ブロック協議会(河川環境管理財団)(福岡)
  - 2003.6.14~15 魚類調査 (講師:瀬能宏さん)
  - 2003.6.16 カブトガニ標識放流
  - 2003.6.25 小楠小学校4年生総合的学習 干潟観察会 標識付カブトガニ受け取り

#### ■2002年度水辺に遊ぶ会会計報告

前年度繰越金(※)・会費・カンパ他	484,187
観察会参加費・講師謝金・講習会参加費	454,580
WWF助成金	300,000
青年会議所まちづくり助成金	300,000
セブンイレブンみどりの基金	310,000
漂着物調査委託	99,969
教職員共済助成金	300,000
合計	2,248,736

※年度にまたがる助成金を含む

イベント 諸経費(保険・備品・会場他)	103,968
研修費(講師謝金・講習会受講費他)	459,860
調査費(調査備品・薬品等購入他)	309,592
交通・宿泊費(研究者分・出張他)	506,148
教材費・資料費(書籍購入・コピー代他)	50,254
ミュージアム制作費用(ソフト他)	153,739
会費(調査時ボランティア弁当)	62,130
広報費(紙代)	78,411
通信費(切手代・宅配便)	94,507
事務局経費・その他(慶弔費等)	74,838
合計	1,893,447

残高(次年度繰越金)※ 355,289  
※助成期間が年度を越える 教職員共済助成金(247,540円)を含む

へんじゅうこうき

■「海の漂流記を書いたら日本一(漂流記の魅力)」吉村昭著・新潮新書 おすすすめします。(あ)

■6月22日夜、我家も明かりを消して過ごしました。窓の外からはカエルの合唱。文明の発展とともに、私たち人間は、いろいろな感性をなくしつつあるのかもしれない。(う)

## 夏のイベント!! 伝言板

### なつやすみ干潟観察会

#### 7月26日(土) 午後1:00~

集合場所: 大新田海岸(セブンイレブン奥)  
持ち物: 長靴・汚れてもいい服・水筒・帽子・バケツ・スコップ・着替えなど 参加費: 大人200円・高校生以下100円

今年もやるよ!

### アカテガニ産卵観察会

#### 8月26日(火) 夜7:30~大新田

### 映画「森の学校」

#### 9月7日(日)

吉富フォーユー会館にて  
前売大人800円 小中高生600円

自主上映決定

★ありんこクラブと水辺に遊ぶ会の共催でお贈りする映画鑑賞会です!!  
★日本を代表する霊長類学者、河合雅雄氏原作。丹波の豊かな自然の中で、のびのびと成長する河合雅雄・隼雄兄弟の物語です。

☆「アカテガニ観察会」と映画「森の学校」の詳細は、近目中にお知らせをお送りします!

昔の海の思い出話をしてくれる おじいちゃん、おばあちゃん、いませんか? 古ーい写真もさがしてまーす!

### 会員募集中!

年会費1000円 事務局までお問い合わせ下さい。

### 大新田ビーチクリーン

★次は7月13日(日)だよ!  
10月5日(日) 12月7日(日) 11:00~12:00

### 水辺に遊ぶ会MUSEUM

水辺に遊ぶ会ミュージアムは「建物のない博物館」です!

<http://www.10.plala.or.jp/mizube/>

ホームページも覗いてみてね!

ご意見・ご感想など、みなさまの声をお待ちしております。  
URL:<http://www.max.hi-ho.ne.jp/y-ashikaga/>  
e-mail:mizube1999@yahoo.co.jp

# MIZUBE ライブラリー

## 有明海異変

古川清久 [著] 米本慎一 [著]  
不知火書房 1,800円

アサリ、タイラギ漁の壊滅、川養殖の大不作  
「宝の海」に広がる土壌汚染のウミを検証、海と川と山の再生への道をさぐる。

## 有明海異変

海と川と山の再生に向けて

古川清久 [著] 米本慎一 [著]  
不知火書房 1,800円

ハゼが岸から姿を消し、アサリもとれなくなった。私の幼年期を はぐんでくれた 豊かだった有明海は、なぜこんなにも 情けない姿になったのか……

たまには マジメに 環境問題

## Sence of Wonder

センス・オブ・ワンダー  
レイチェル・カーソンの贈り物  
グループ現代

水辺に遊ぶ会ライブラリー  
新着おすすめビデオです!

★お問い合わせは事務局まで★

ありあけいさはや  
宝の海のメカニズム

しおの満ち引き、泥、鉄分、酸素。

日本自然保護協会  
有明海漁民・市民ネットワーク  
瀬戸早干製菓急務東京事務所

人工の海  
外洋のプラスチック

JEAN  
(クリーンアップ全国事務局)

2000年自主上映  
ビデオシリーズ  
DVDシリーズ  
ビデオあり  
DVDあり

毎月12月の  
学習会と観る  
ビデオあり

### 私の大新田時代 (その六)

3学童による害虫駆除  
田植え前、苗代の苗に害虫が卵を産みつけたら、蛾になるので部落毎に学童の手によって駆除する一つの行事。短縮授業で部落担任の先生の引率でそれぞれの部落に帰り、用意した紙袋(紐をつけて音から下げる)と細長い棒を持って苗の上をそっと払うと蛾が飛び立つ。これをす早く捕まえる。卵は苗の葉うらに産みつけたのを見つけて取る。

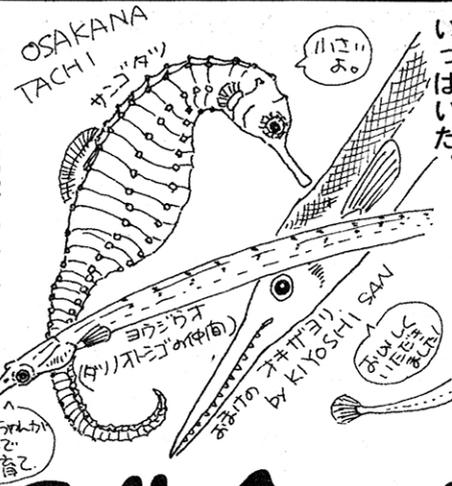
次の日学校に持っていき、蛾何匹卵何と報告。害虫は焼却。昔の子供はいろんな面で手伝っていたと思う。

4児童学習発表会  
部落別に適当な広い場所(大ていはお寺)において保護者参観のもとで学年別に発表(朗読、書き方、絵唱歌等)。学校でも学芸会という名のもとで年一回行なっていたが、部落別の発表会では全児童が必ず何か一つ発表していたように思う。忙しくて学校までは行けない保護者もこの日は出席しやすかったので、大方の人は出席したように思う。学校での発表会は保護者は参観しなかつたように思うが?

## 水辺に遊ぶ会、昔の水辺に遊ぶ!

「水辺」の子ども達有志による別働隊、その名はまだない化石探掘グループが、田植えで手が離せぬ大人を突き動かして遊んできたのは「昔の水辺」???。オータハカセによると、そこは三百〜四百万年前の水辺(沼のほとり)なんだそう。絶滅したシンシウゾウの骨も出たとこだぞい。なぞとハツパをかけた化石少年少女の目はランランと輝き、ハカセの指導で発掘作業に突入。さっそく見つけたのは小さからぬ骨! 驚いたのは大人達で「こりや! 大発見かも知れん?」と固唾をのんでの発掘作業となった。(かなり大げさ)ところがなんと、途中で折れちゃったね、これが。(ホントに大発見なら、こりや大変)しかし、こんなことでメゲてはならじ。細心の注意を払って取り出す。子ども達のつづらな瞳が集まる一瞬だった。

折れたのどいなる???ご心配なく。真理の追究に飽くなき執念を燃やす「もと子ども」が、必ず再生しご披露すると堅い約束を交わし、田植えに向かうべく?そそくさと車で去って行ったのだった。



# 水辺に溢れる生命のとなみ。地球が生まれた頃からずっと。

夏の陽差しがキラキラ光る水辺には、子どもたちの歓声が響く。水辺に遊ぶことのできるしあわせを感じながら、浜辺を歩こう。



## 今月の里海・里浜物語

中津にも塩田があったのです。大がかりなシステムで対応し、つい最近まで機能していたのは田尻地区です。同ったお話からご紹介させていただきます。

中津の塩田は入り浜式で、田尻の浜が満ち潮の時入って行く海水を引き込みます。塩田で働くことを「はまもち」と言い、シーズンには夏なので作業時間は早朝に限られます。炎天下の塩田で働くことは心身に相当な消耗を強いるため、さすがの男衆(おとし)でも音を上げてしまうからです。特に田尻地区には独自の製塩法が発達しており、技術の伝承を大切にしました。一時期地区内の結婚が多かったのはこのためだそうです。

製塩法はその昭和30年頃から流下式塩田(竹の小枝を利用した枝条架(シジヨウカ)で知られる)へと変化します。中津市の醤油味噌の醸造元にとって欠かせぬ塩はきつと田尻産だったでしょうね。▼この「はまもち」に使った漁具のいろいろを、次回のガタガタ通信ではご紹介したいと思います。

